

【第1号議案】 2022年度事業報告・決算報告・監査報告承認の件

2022年度事業報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

1、フードバンク事業

フードバンク事業では、まだ食べられるのにさまざまな理由で廃棄される食品を個人や企業から寄贈してもらい、食の支援を必要とする生活困窮世帯や低所得で子育てするひとり親・ふたり親家庭への食のセーフティネット事業を支え、また地域の福祉団体などへ寄贈食品の無償提供を行う。

(1)2022年度入庫(食品寄贈 2023年3月まで)集計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	前年度
市民	216	277	320	279	341	310	581	417	786	372	260	343	4,501	3,560
企業・団体	430	303	487	780	448	1,250	659	843	1,166	1,114	1,175	879	9,562	10,495
常設	218	142	279	372	292	206	250	258	395	253	186	199	3,049	1,971
生協	250	250	283	327	668	582	260	250	796	330	598	369	4,960	2,122
イベント						110							110	65
廃棄	-7	-4	-5	-3	-5	-7	-13	-13	-9	-36	-39	-15	-156	-142
総計	1105	968	1393	1754	1744	2450	1736	1755	3132	2032	2180	1775	22,026	18,131

今年度は、食品企業の未利用食品や諸団体によるフードドライブ食品の寄贈拡大、他都市を含め、市民が購入して寄贈される食品も多く、寄贈食品入荷量は年間20トンを超えています。

狛江市より市庁舎内作業所と西野川の倉庫・事務所を貸与されて食品在庫スペースの拡張を図れたが、既に手狭になっています。また、車での集荷・配送作業を担う役員の高齢化で、配送車両の確保や運転に携わる作業のあり方が課題となっています。

①市民寄贈

フードバンク事務所/倉庫への持ち込みや、宅配便で届けられた市民からの寄贈食品。家庭で使わない食品や購入して食品を寄贈される方、また10月から導入した「Amazon 欲しいものリスト」から購入して寄付される方が多くなっています。

②市内4か所の常設寄贈受付

コロナ禍で受付場所を増やせませんでした。寄贈量は昨年比約1.5倍へ増加。食品を持ちこめる常設場所が地域に知られるようになり、すっかり定着してきたといえます。

常設	総重量(Kg)	うち米(Kg)	2021年度 総重量
こまえくぼ1234	1502.8	203.0	864.4
社会福祉協議会(あいとぴあセンター)	883.7	186.0	743.3
こまえ苑	449.2	79.0	264.2
こまえ正吉苑	263.6	30.0	99.3
合計	3049.3	498.0	1971.2

### ③企業・団体

全国フードバンク推進協議会幹旋企業からだけでなく、尾西食品をはじめ新たにキッコーマンなど直接食品寄贈を受けています。ダイエーと正式に同意書を交わして都内6店舗のフードドライブ品やカーブス5店舗のフードドライブ品の寄贈を受けました。

市内の団体によるフードドライブでは、商工会青年部や狛江市社会福祉法人連絡会が取組んでいます。さらに、新たに狛江ではじめて和泉小学校がSDGs学習の一環でスクールフードドライブに取り組みました。また、賛助団体3色パステルアートの購入食品の寄贈や、おてらおやつクラブ華巖院(町田)のお供え物(果物等)のおすそ分け、福島支援で購入するお米の提供を受ける東京すずらんの会、堀口珈琲、天理教江東分会に加えて個人でも定期的に支援継続される方々が増えています。

2022年度食品等を寄贈いただいた企業・団体一覧 敬称略・順不同

3色パステルアート	東都生活協同組合	正受院
KENKO Coffee	生活協同組合パルシステム東京	生活クラブフードバンク
NTTコムウェア(株)	ひだまりセンター狛江市教育研究所	生活協同組合コープみらい調布染地店
PayPay(株)	フーディアム下北沢店	生活協同組合コープみらい東京本部
アサヒグループ食品	和泉小学校	全国農業協同組合連合会
トータス往診クリニック	みんなの居場所	大樹生命保険(株)
カーブスアメリカ稲城	モランボン(株)	大鵬薬品工業(株)
カーブス狛江	ユウキ食品(株)	第一生命保険(株)
カーブス上野毛	ロイヤルインダストリー(株)	中山法律事務所(八王子)
カーブス相師谷大蔵	華巖院(おてらおやつクラブ)	朝日生命保険相互会社
カーブスイオンスタイル東神奈川	(株)JR 東日本クロスステーション	天乃屋商事(株)
ぐあんぱーる	(株)ゴールデンレイシオ	天理教江東分教会
グルメシティ三鷹中原店	(株)プランニング オフィス イイ イイ	東京すずらんの会
グルメシティ神代店	(株)ヤクルト本社	パークレイズ証券(株)
グルメシティ武蔵境店	(株)小田急 SC ディベロップメント	日清食品(株)
コープデリ三鷹センター	栗山設備(株)	日本心臓財団(公益財団法人)
コープみらい調布染地店	狛江三田会	尾西食品(株)
コカ・コーラボトラーズジャパン(株)	狛江市商工会青年部	堀口珈琲
すえひろ行政書士事務所	狛江和泉多摩川リバーサイドにぎわいのある街づくり推進会	名糖産業(株)
ダイエー三軒茶屋店・イオンフードスタイル	城南信用金庫	明治ホールディングス(株)
ダイエー幡ヶ谷店	世田谷杉本商店	(有)菅沼製作所

### ④イベントでのフードドライブ

9月17日(土)、狛江市消費生活展くらしフェスタが開催され、フードドライブを実施し約110kgの寄贈があった。

### ⑤生活協同組合による支援

東都生協のフードドライブは、今年度も2回取り組まれ9月 326.8kg、2023年2月 267.6kgの寄贈を受け、さらに「未来につなぐ募金」や寄付を活用した臨時支援(食品提供)で約10万円相当の商品の寄贈を受けました。お米の寄贈はコープみらいから毎月250kg以上、パルシステム東京も2回865kgの寄贈がありました。パルシステム狛江センターでは、はじめてフードドライブを実施しています。さらに、生活クラブフードバンクからも6回鶏卵の寄付を受けるなど、生協との連携で食料支援事業が支えられています。

## ⑥廃棄となる食品

市民寄贈やフードドライブでは、賞味期限が切れていたり不明な食品も寄贈されて、廃棄処分としています。食品の管理上で賞味期限を切らしての廃棄はありません。

### (2)地域の福祉団体への食品提供

食堂系団体はお弁当の配布やパントリーだけでなく、感染対策を講じながら徐々に食事の提供に取り組んでいる。お米の寄贈量が増えたこともあり、食堂系団体へ昨年の3倍以上の提供となりました。通常の活動が再開されて、団体や宿泊・食事提供のある団体にも食品提供ができるようになっていきます。

提供先		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(Kg)
団体	重量	257	328	259	195	204	743	703	317	617	222	327	241	4,413
	(内米)	28	208	29	58	32	13	230	25	14	43	35	30	746
	件数	10	15	15	13	9	18	19	9	10	9	11	10	148

## 2、食のセーフティーネット事業

食のセーフティーネット事業は、狛江市との食料支援連携協定により、さまざまな理由で一時的に困窮し、食の支援を必要とする世帯へ、生活困窮自立相談窓口「こま YELL」からの依頼書をもとに、世帯に合わせた食品を提供する事業と、子育て世帯で低所得のひとり親・ふたり親家庭を対象に、学校給食のない時期に食料を提供する食料支援事業のこと。また、この家庭で学習支援を受ける子どもたちにお菓子や飲料を提供します。

### (1)こま YELL を通じた食料支援

① 市庁舎:自立相談窓口「こま YELL」への食料提供 毎週月曜・木曜の午後 1時から3時、市庁舎作業所で食品寄贈受付と、こま YELL の依頼書をもとに世帯に合わせた食品セットをしています。

「こま YELL」への提供件数は、長引くコロナ禍の影響で2021年度年間月平均件数132.9件と増えてきましたが、今年度は国の支援策や自立支援のアセスメントの徹底で月平均件数は100件に減っています。しかし今年に入って月100件を超えるようになっていきます。

提供先		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(Kg)
こま YELL	重量	378	330	339	382	564	498	544	544	568	588	633	698	6,066
	(内米)	107	93	117	124	150	142	137	137	154	153	154	135	1,601
個人支援	件数	88	72	73	84	95	82	85	90	103	103	107	111	1093
	備蓄件数	1	2	2	0	2	0	9	20	6	11	10	11	74
	(内備蓄重量)							66	65	17	38	31	33	250

### ② 学習支援を受ける子どもたちへ、お菓子・飲料の提供

	夏休み	ハロウィン	クリスマス	春休み
こま YELL 学習支援				
件数	24	27	28	28
お菓子・飲料提供量	24kg	13.5g	14kg	25.2kg
子ども政策課学習支援				
件数	25	27	20	29
お菓子・飲料提供量	25kg	13.5g	29.7kg	26.kg

## (2)「学校給食のない時期」食料支援で子育て応援

8月夏休み支援は就学援助受給決定通知書発送時と児童扶養手当況届提出案内の発送時に、12月冬休み支援は夏休み支援に申込まれた世帯にはメールで、またひとり親医療証書送付時に「子育て応援の食料支援案内」を同封し、実施しました。3月の春休み支援は、夏・冬休み支援の申込み世帯にメールで案内を送付して取組みました。

夏休み支援過去最多の204世帯、冬休みには192世帯、春休みは170世帯から応募があり、配送と直接受渡しで食品を提供しました。また、今年度もお米の寄贈が多いことから、5月6月10月1月の4回、給食のない時期の子育て応援に申込まれた世帯に、一斉メールで募って「おすそ分けお渡し会」を実施し、お米をはじめ在庫状況によってお菓子や調味料、飲料や時にはコスメなどを提供しました。

お渡し会は、スタッフの熟練や準備の手際の良さで、スムーズに進めることができました。子ども連れで取りに来るケースも増え、4年目を終えてスタッフから温かい声かけが、子育てへの励みや支えになっていると感謝の声が多くなっています。

提供先		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(Kg)
子育て 応援	重量		774	454		2,090		680		2,531	1,080		3,413	11,022
	(内米)		534	370		657		470		637	540		1,040	4,248
	件数		89	74		204		94		192	108		172	933

支援世帯数・人数				
	世帯数	18歳以下人数	親+子供数	食料支援量
2022年夏休み	204	294	589	2,089.6 kg
2022年冬休み	192	335	565	2,409.0 kg
2023年春休み	171	296	511	3,413.0 kg

## 3、フードバンクの普及・啓発事業

広く食品ロス削減を呼びかけ、ロス食品を生活困窮者支援に活かす地域の「食の分かち合い」をフードバンク活動として提起し、地域に発信することを通して共に支え合う心豊かな地域社会を創ることを目的に、啓発活動を行う。

本年度は以下の広報・啓発活動を実施しました。

### ① 「こまエコまつり」で食品ロス削減の啓発パネル展示

9月17日、18日に開催された環境イベント「こまエコまつり」でパネル展示を実施。

場所:中央公民館第2会議室 内容:WFP(世界食糧計画)のパネル、日本フードエコロジーセンターの写真で日本の食品ロス問題を取り上げ、ロス食品を生活困窮者支援に活かすフードバンク粕江の活動を紹介。

### ② 10月の食品ロス削減月間

10月17日～21日パネル展示で食品ロス削減を呼びかけ。

場所:粕江市役所2階ロビー 内容:世界の飢餓、日本の貧困、SDGsに取り組むフードバンク活動を紹介

### ③ 10月28日第3回「フードバンク活動でつながる粕江の団体交流会」を開催。

場所:粕江市防災センター4階 内容:食品寄贈や寄付する団体と、食品提供を受ける団体が、互いに知ることを目的に活動を紹介し合う。32団体43名が参加。

### ④ 理事長の講演による広報

10月22日、社会福祉協議会主催の福祉カレッジで講演。

場所:あいとぴあセンター3階 内容:子育て応援食料支援で実感した子育て世帯の現状を講演。

⑤ 媒体を利用した広報活動

・ 紙媒体

ニュースレターの発行で会員・支援者に活動を周知。市民に食品寄贈を呼びかけるチラシやポスターを作成。  
今年度はチラシの作成に、「くらしと生協」子どもの未来アクション応援助成金と狛江市の補助金を活用しました。

ニュースレター	合計4回	2022年6月 No.31 2022年9月 No.32 2022年12月 No.33 2023年3月 No.34
チラシ 公営掲示板・公共施設・ 町内会・スーパー等で 配布/掲示	合計 9,200 枚	2021年6月 2,000 枚:夏休み子育て応援食品寄贈 2021年9月 1,400 枚:食品ロス削減月間 2021年11月 2,000 枚:冬休み子育て応援食品寄贈 2022年2月 600 枚:春休み子育て応援食品寄贈

・ インターネット媒体

今年新たに、1月7日に Twitter を開設しました。

facebook	7日~10日ごとに更新	<a href="https://www.facebook.com/foodbank.komae/">https://www.facebook.com/foodbank.komae/</a>
Twitter	活動日毎に更新	<a href="https://twitter.com/foodbankkomae">https://twitter.com/foodbankkomae</a>
ホームページ	イベントの告知や報告随時更新	<a href="https://fb-komae.org/">https://fb-komae.org/</a>

・ テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、広報誌など

2022年6月24日	狛江のFMラジオ	夏休みひとり親等食料支援に食品寄贈呼びかけ
7月1日	広報こまえ	夏休みひとり親等食料支援に食品寄贈呼びかけ
7月13日	時事通信社	物価高フードバンクを直撃
10月1日	広報こまえ	10月は食品ロス削減月間、パネル展示の案内
11月15日	広報こまえ	冬休みひとり親等食料支援に食品寄贈呼びかけ
11月18日	狛江のFMラジオ	子育て世帯への冬休み食料支援の食品寄贈呼びかけ
2022年2月10日	狛江のFMラジオ	食品寄贈呼びかけとボランティア募集のお知らせ
2月15日	広報こまえ	子育て世帯への春休み食料支援の食品寄贈呼びかけ
3月1日	わっこ	社会福祉法人連絡会フードバンクに食品寄贈

- ・ その他 ポスターの掲示=和泉エンジニアリングサービス(東和泉)の専用掲示板、「こまえくぼ 1234」掲示板、木村メガネ店頭や支援者宅での掲示。

#### 4、フードバンク活動を普及するための調査・研究事業

子育て応援食料支援で申し込みのあった家庭に、配送・受渡し時にアンケートを同封し、実施しました。

- ・ 夏休み支援： 1) 物価が上昇していますが、生活にどのような影響がありますか？  
(回答 88) 2) この食品が生活にどのように役立っているのか具体的にご記入ください。  
この活動を支援して下さる市民・企業の方々にお伝えします。
- ・ 冬休み支援： 1) 食品を受け取ったの感想をお聞かせください。  
(回答 86) 2) 冬休みは子どもたちとどのように過ごされますか。

- ・春休み支援：1)皆さんが抱えてい困りごとや悩みをご記入ください。  
(回答 48) 2) 今回、提供を受けての感想などお書きください。

(詳細はホームページ <https://fb-komae.org/>子育て応援実施報告書を参照)

## 5、事業を支える組織基盤と運営について

今年度はコロナ禍が続くなかでも、社会・経済活動が徐々に正常化に向かう一方、戦争やエネルギー危機の影響による物価高が進み、生活困窮世帯の生活を悪化させました。社会的にもフードバンクへの期待が大きいなか、狛江市あとの連携協定を基に、地域の生活困窮世帯諸団体と連携を強め、フードバンクを「地域の仕組み」にしていくために、「フードバンク活動でつながる狛江の団体交流会」を開催しました。高齢化している団体にとって、組織基盤の確立とともに、さらに地域の力を借りて持続可能なフードバンク活動にして行くことが課題です。

### (1) 倉庫と市庁舎作業所での活動

#### ① 西野川の事務所/倉庫での活動。

事務所、倉庫と市庁舎作業所の開所日活動では、有償スタッフ2名と役員、5～6名の入れ替わりがありましたが、27名のボランティアの参加で、月平均60名により食品在庫量と管理を充実することができました。

事務所・倉庫では市庁舎作業所への配送と常設寄贈所の集荷、企業・団体・市民からの寄贈食品の受入れと仕分け、さらに地域の諸団体が食品を受け取りに来る場所として、対応に忙しい日も多くありました。また、子育て応援食料支援の食品セット・発送や食品の直接受け取りも倉庫で取り組みました。

一方で、年間の取扱量が20トンを超え倉庫が手狭になって、子育て応援の食品発送準備期間には支援世帯も延べ560件を超え、一回の食品セットが200世帯を超えるようになってきて、作業スペースや作業方法が問題となっています。また、自車で配送を担う役員の高齢化で、新たに車両と運転手の確保が喫緊の課題となっています。

#### ② 市庁舎作業所の活動。

作業所内が密にならないよう役員・有償スタッフなど少人数で活動する時期もありましたが、2～4名でこまめにYELLからの依頼件数の食品セット、倉庫からの食品仕分けを担当しています。また、月末の棚卸しを定例化し食品チェックと在庫管理に努めています。

### (2) ボランティアの参加と育成

ボランティアの参加体制は、毎月にシフト表によって計画的に管理するよう取り組んでいます。しかし、役員の体調不良やベテラン有償スタッフの転居、係るボランティアの高齢化により、引き続きボランティアの募集・育成が不可欠です。

ボランティア参加状況 平常の活動は役員・事務局スタッフ6名、ボランティア20名で対応。

・市庁舎作業所 活動日毎2～4名 ・倉庫/事務所 活動日毎5～7名

2か所に分かれて作業することで、情報共有や団体の求心力の面で課題もありますが、事務局スタッフの増員と事務局会議の定例化やLINEなどの活用で、活動や情報の共有をすすめています。しかし、ボランティア同士の繋がりやモチベーションを喚起し、フードバンク活動をより知ってもらう研修の機会は持てませんでした。

### (3) 運営基盤の整備

#### ① 持続可能な事業活動のために。

今年度は、懸案だった休眠預金応募に向けた団体の各種規定類を作成するために、ほぼ毎月担当役員による検討会を実施しましたが、専門家派遣でフードバンク岩手の阿部氏の助言もあって、休眠預金の応募は負担の大き

さから理事会で見送りを決め、組織基盤を整備するためにも規定類の作成は継続することとしています。

理事会は、オンラインも活用して毎月定期的で開催し、ほぼ全理事が参加しますが、全員70歳以上の高齢になり、同時に2人の理事が病気療養で離脱することになり、役員の世代交代が大きな課題となっています。

事務局では、有償スタッフ1名の離脱により、事務局に新たに2名加入してもらい、5名体制で仕事の分担を明確化して、食品管理や会計・組織管理事務等のデータ入力の見直しも図ってきました。また事務局会議を毎月定例開催とし、事業の取り組みの詳細を決めています。

## ②組織の現状と財政基盤の確立に向けて。

会員の加入状況については、3月31日現在、正会員43名(昨年42名)、賛助会員個人44名(昨年43名)団体7(昨年6)で、昨年度より少し増やしました。しかし、財政基盤の確立には全く不十分で、会員・賛助会員への働きかけや会員継続・拡大など支援者の拡大につながる活動が必要です。

今年度もフードバンクに多くの寄付が寄せられましたが、一昨年の280万円から年々寄付が減ってきています。財政基盤を確立するために、寄付金獲得への行動が必要です。高額の寄付者に副理事長で児童文学者の中島信子氏著書「八月のひかり」を1団体、「あしたへの翼」を13名2団体に贈呈しました。

寄付者総数：287件、寄付総額：1,833,926円(昨年270件、2,119,116円)

- ・企業・団体 3団体(一般社団法人水澤、天理教江東分教会、トータス往診クリニック)
- ・個人 延べ255名 \*クレジット決済 Syncable でのマンズリーサポーターは9名、Square で6名

助成金：2022年 ・4月 生協連『くらしと生協』子どもの未来アクション応援助成 280,000円  
 ・12月 MDRT 助成金 200,000円

\* MDRT とは世界で活躍する生命保険募集人のプロフェッショナルが会社の垣根を越えて相互研鑽や社会貢献活動をしている団体。

会員の拡大と地域の企業・団体や個人の賛助・寄付によって、事業財政基盤の確立を目指しましたが、今年度もコロナ感染拡大により積極的な訪問活動は行いませんでした。今後、役員の高齢化や活動を担うボランティアの不足を補う必要から、報酬を伴う役員・スタッフの確保に、積極的な寄付金の獲得など事業資金の調達に取り組むとともに、必要な助成金や補助金の獲得を目指します。

## 6、2022年度活動経過 (2022年4月1日～2023年3月31日)

年	月	日	活動内容
2022年	4月	11日	ダイエー幡ヶ谷店からフードドライブ品受取りはじまる
		15日	福祉相談課・こま YELL と三者協議
	5月	15日	お米等おすそ分けお渡し会開催
		16日	フーディアム神代店からフードドライブ品受取り開始(隔月)
		28日	第六回通常総会
	6月	2日	ニュースレターNo.31発行
		9日	こま YELL と二者協議
		16日	子ども政策課と子育て応援協議
		20日	学校教育課と夏休み子育て応援協議
		24日	こまラジ出演
		27日	お米の「おすそ分け」お渡し会
	7月	11日	こま YELL 学習支援にお菓子提供
		14日	子ども政策課学習支援にお菓子提供
		16日	パルシステム狛江でフードドライブ
		下旬	夏休み子育て応援申込受付開始

	8月	2日	夏休み子育て応援食品セット開始
		5日/7日	夏休み子育て応援お渡し会
		7日	夏休み子育て応援申込受付終了
		30日	福祉相談課・こま YELL と三者協議
	9月	5日	ニュースレターNo.32 発行
		8日	東都生協フードドライブ品受取り
		17日	「くらしフェスタ」でフードドライブ
		17・18日	「こまエコまつり」でパネル展示
		22日	ダイエー本社が合意書協議で来訪
		27日	福祉相談課と団体交流会で協議
	10月食品ロス削減月間	1日	お米の「おすそ分け」お渡し会
		13日	近隣フードバンクとオンライン会議
		17～21日	狛江市庁舎でパネル展示
		22日	福祉カレッジで理事長講演
		28日	第3回 団体交流会開催
	11月	14日	ニュースレターNo.33 発行
		18日	こまラジ出演
		24日	冬休み支援第一次申し込み開始
	12月	1日	冬休み子育て応援第1次申し込み締切
		1日	ダイエーとFD 合意書交わす
		9・10日	冬休み子育て応援お渡し会
		21日	冬休み子育て応援第2次申し込み締切
		26日	仕事納め
	1月	28日	社会福祉法人連絡会フードドライブ受取
		28日	おすそ分けお渡し会
		30日	3色パステルアート来訪
	2月	1日	SQUARE(クレジットカードによる寄付)利用開始
	2月	10日	こまラジ出演
		16日	東都生協フードドライブ受取
		20日	ニュースレターNo34 発行
		20日	春休み子育て応援申込開始
		24日	狛江市福祉相談課、こま YELL と三者協議
	3月	1日	春休み子育て応援申し込み締切
		7日	春休み子育て応援発送開始
		9・10日	春休み子育て応援お渡し会